

滋賀県競技力向上対策本部

第8回競技力向上対策本部会議 会議概要

- 1 日 時：平成 30 年 6 月 21 日(木)15:30～16:30
 - 2 場 所：滋賀県危機管理センター大会議室
 - 3 出席委員：(本部長) 西嶋栄治
(副本部長) 河本英典・青木洋・浅見孝円
(監事) 青木幸一・西川甫
(本部員) 伊藤定勉・大日常男・大田祥登・織田恭淳・倉谷義数
田中浩二・豊田則成・松村実 (五十音順、敬称略)
(委任状提出本部員)
我孫子智美・伊坂忠夫・坂井田稔・杉江淑子・大道良夫
山仲善彰・横山勝彦 (五十音順、敬称略)
 - 4 開会
あいさつ 滋賀県競技力向上対策本部 本部長 西嶋栄治
・平成 26 年に策定した競技力向上対策基本計画充実期の 2 年目
・福井国体では 20 位台前半を目標に取り組む
 - 5 協議事項
・役員の変更(案)…役員の変更 副本部長 浅見孝円 監事 青木幸一
・本部員の変更(報告)…本部員も異動に伴い 5 名変更
→異議なしで承認
本部員、監事自己紹介

・平成 29 年度競技力向上対策本部事業報告・収支決算報告(案)
監事より監査報告
・競技団体からの報告書を見ると、競技団体によってばらつきや温度差がある。
・公金であるのでもう少し、本部に伝わるような中身の濃いものにして頂きたい。
- <質疑応答>
→質問、意見は特になく、異議なしで承認

6 報告事項

・平成30年度滋賀県競技力向上対策事業について

<質疑応答>

【本部員】ターゲットエイジの競技力向上については、障害者スポーツについても取り組んで頂けないか。強化システムについても、障害者スポーツも考えてもらえないか。1人でも多く競技者を増やし、体制を整えて欲しい。

【事務局】事務局でも国体とともに、全国障害者スポーツ大会の競技参加者数を増やすとともに、障害者スポーツについても競技力向上を考えているので、どのような形で対応できるか今後検討したい。

【本部員】活躍選手採用促進事業の対象として障害者スポーツ選手も考えてもらえないか。

【事務局】本事業は今年度から本格的に実施する。パラリンピックや全国障害者スポーツ大会で活躍したスポーツ選手の雇用も同様に力を入れて参りたい。

【本部員】〇〇競技については、強化拠点校が指定されているが、強化拠点校の機能はどのようになっているのか。△△高校に〇〇競技の選手が入学してきたが、〇〇部は無くクラブチームで活動している。親御さんからの希望で、海外遠征もいくほどの選手であるが、部活動のない△△高校に入学してきた。入学前に△△高校では、活動環境が整っていない為に十分な指導ができないので、▲▲高校などへ行くように勧めた方が良いのか。

このように選手が分散している実態があるが、強化拠点校の機能はどのように考えているのか。

【事務局】事務局でも〇〇競技の実態は掴んでいる。まずは拠点校を中心とした強化を進めているが、国体に近づくにしたがってそのような状況にも対応できるよう、選手個人の指定についても今後考えていきたい。拠点校についても、徐々にメリハリをつけて取り組んでいきたい。

【本部員】〇〇中学校にレイキッズを終了した子供が入学していることを知らなかった。強化指定選手やレイキッズの周知はどうなっているのか。

【事務局】遅くなっているが、PVと共に名簿を持って周知に回りたい。

【委員】スポーツ文化推薦入試は、対象となる競技を部活動で取り組んでいること

が、要件になっているが、学校にその競技がないために、他の部活動で取り組んでいる子供もいる。そのような子供も受験できるように入試制度の改善もあるのか。

【事務局】入試制度にかかわることなので教育委員会へもご意見を伝え、どのような対応ができるのかご相談していきたい。

【本部員】中学校の理事会で、レイキッズ修了生の名簿などを公表しても良いのか。

【事務局】公表の了解も得ており、公表することは問題ない。

【本部員】事業の計画を見ると、子どもたちを丁寧に育てて頂いていると感じているが、いくつかの競技で暴力問題が起こっているが、競技力向上や勝利至上主義による要因も関わっているので、子どもたちを育成する上でスポーツマンシップについても育てていく必要がある。今後、事業の中でもこのような視点も組み込んでいただきながら進めていただきたい。

【本部員】個人の競技成績を長期間追いつけられるよう、情報の共有化など、システムとして構築してもらいたい。

【本部員】選手の雇用促進については、できるだけ終身雇用を前提に企業にお願いして進めてもらいたい。

7 その他

- ・近畿ブロック大会、福井国体、全国障害者スポーツ大会等の情報について

8 閉会